

やすらぎ通信

平成 29 年 お盆

発刊不定期 横浜やすらぎの郷霊園管理事務所 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町 1749-1
☎045-924-0210 FAX:045-924-0239 URL: y-yasuraginosato.jp Eメール: info@y-yasuraginosato.jp



正門花壇の芝桜



4 月 花まつり



5 月 ちどり草



5 月 しゃくなげの花

■合同合祀慰霊祭のご報告

去る 4 月 14 日満開の桜の下、合同合祀慰霊祭が執り行われました。永代供養墓やすらぎの碑から合祀墓やすらぎの塔への合祀供養です。善光寺住職導師にて礼拝堂で追善供養を行い 20 名の御霊を合祀致しました。墓地継承の不安や永代供養墓についてのご質問がございましたら、お気軽にお問合せ下さい。



5 月 永代供養墓前のサツキ

■やすらぎ寺子屋のご案内

毎月第 1 日曜日の午後 2 時から、椅子坐禅と法話会・茶話会を行っています。法話については、正法眼蔵随聞記(しょうぼうげんぞうずいもんき)と一緒に学びたいと考えています。解りやすいお話です。お気軽にご参加下さい!!

【7 月 2 日(日)・8 月 6 日(日)・9 月 3 日(日)】 午後 2 時～ 1 時間ほど

場所：やすらぎの郷霊園礼拝堂 参加費：無料 宗教・宗派不問

■御詠歌教室

ほとけさまを讃え、ご先祖さまを敬うところを唱えます。やさしく穏やかな曲を丁寧な指導でお唱えしているうちに、正しい信仰を学び安らかなころが生まれ新たな感動がわいてきます。講師は曹洞宗梅花流特派師範 渡邊清徳師です。

【7 月 6 日(木)・8 月 22 日(火)・9 月 7 日(木)】 午後 2 時～ 2 時間ほど

場所：善光寺 参加費：無料

■論語のお話

【7 月 9 日(日)・8 月は休み・9 月 10 日(日)】 午後 2 時半～ 1 時間ほど

場所：善光寺 参加費：無料 講師：東郷敏先生

※善光寺では他にも坐禅会・写経会・書道教室・華道教室などを開催しております。ご興味のある方はお気軽にお問合せ下さい。お待ちしております。



4 月 すみれ

《お盆のご供養について》

○ 7月盆 7月13日(木)から7月16日(日)

○ 8月盆 8月13日(日)～8月16日(水) ※月遅れ盆とも言われます。

首都圏では、7月盆が多く、地方では8月盆が主流です。横浜では、やすらぎの郷のある旭区周辺は8月の方が多ようです。お盆期間のご供養についての依頼は、曹洞宗善光寺でのご供養に限って承ります。霊園でのご供養の他に、ご希望の方のご自宅にお伺いしてお仏壇(お盆の精霊棚)に対してのご供養も承ります。詳しくは管理事務所までお問い合わせ下さい。

◆お盆の迎え方 … 地域や宗派によって異なります。下記は一般的なものです。参考になさって下さい。

精霊棚 盆棚

真菰(マコモ)のゴザを敷いた台、もしくは白布を敷いた机などの四隅に青竹を立て、その上部に縄を張って結界とします。縄にはソーメン・ホウズキ・アワ・キキョウ・ユリ・花(みそはぎ)等を吊るします。お位牌はゴザの上に安置します。ローソク立て・香炉・花立て・お供え物なども置きます。

〈お仏壇の場合〉

盆棚を設けるスペースがない場合は、仏壇で精霊棚を兼ねます。

仏壇の上部にホウズキを横向き飾り、手前にマコモのゴザを敷き供物類を供えます。簡単には、仏壇の前に机を置いて、白布を敷き、野菜やくだもの・花・団子などを供えます。

お供え物

この霊座にお花やお線香・お灯明・閻伽水(あかみず：蓮の葉に数滴の水をたらしたもの)・盛物・果物・野菜・そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などを供えます。

また、水の子(みずのこ：洗った米に、なす・きゅうりなどを賽(さい)の目に刻んだものを混ぜて、蓮の葉の上に盛り付けたもの)も供えます。

盆棚の一例



きゅうりの馬・なすの牛

これは先祖の霊が「きゅうりの馬」に乗って一刻も早くこの世に帰り、「なすの牛」に乗ってゆっくりあの世に戻って行くようにとの願いを込めたものとされます。おがらや割り箸をさして形を作ります。

提灯 送り火 迎え火

お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばや軒先に新盆堤灯をお飾りします。

以前はお墓にお迎えに来て、提灯に火をつけてそのまま行列をして家に戻ったといわれます。玄関先で迎え火を焚いてその火をまたぎ一緒に家に帰ります。住宅事情もかわり、提灯を吊るしたり、迎え火を焚けないこともあるかと思いますが、家に大切なお客様をお迎えする気持ちで準備を整えたいものです。

◇お盆のお経・棚経(たなぎょう)

お盆にご自宅の精霊棚・お仏壇の前でお坊さんにお経をあげてもらうご供養を棚経と言います。この風習は次のようなお話が起源とされています。

お盆はさまざまな要素が習合して風習化された行事です。時代は変わっても亡き人を偲ぶ思いは変わらないものと思います。現在は棚経の他に、お寺で皆様お集まり頂き行う盂蘭盆会(うらぼんえ)や、お身内の方が集まりやすい週末に一座設けて行うご供養の形もあります。

～ 仏説盂蘭盆経 ～ (ぶっせつうらぼんきょう)

お釈迦さまのお弟子さまである目連(もくれん)さまはある時、神通力(特別な力)によって亡き母親があのだ世でひどい苦しみを受けているのを見ました。飢えに苦しむ母に神通力で食べ物を与えようとしますが、口に入れた途端に炎と化し食べることが出来ません。嘆き悲しんだ目連さまは、お釈迦さまに救いを求めます。するとお釈迦さまは、次のように教えられました。

雨安居(うあんご:インドでは雨季の3ヶ月間、托鉢など歩き渡りながらの修行ができないため祇園精舎などの建物にこもり坐禅修行などを集中的に行う期間)が終わる7月15日、僧侶たちは一堂に会して修行中の至らなかったことを反省する会を開き身も心も清浄になる。その僧侶たちに百味(たぐさん)の飲食を供養しなさい。それによって母親だけでなく、七世に及ぶ祖先も救われる。

目連さまが言われた通りにすると不思議なことにお坊さんたちの聖なる力によって母親は救われ、皆大いに歡喜しました。

◇ 命の授業 藤塚勇人「五つの誓い」より

- ・口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう...
- ・目は人のよいところを見るために使おう...
- ・心は人の痛みがわかるために使おう...
- ・耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう...
- ・手足は人を助けるために使おう...

藤塚 勇人

1965年、神奈川県生まれ。元中学校体育教師。元養護学校教師。

大学卒業後、「天職」と思えた中学校の体育教師になる。学級担任、バスケット部顧問として「熱血指導」の日々を送る。2002年3月1日、人生を大きく変える事故が起こる。

スキーでの転倒で「首の骨」を折り、奇跡的に命は取り止めたものの、首から下がまったく動かなくなる。当時、医師からは「一生、寝たきりか、よくて車イス」の宣告を受け、あまりの絶望に「自殺未遂」をする。

その後、妻、両親、主治医、看護師、生徒たち、職場の同僚などの応援と励ましを受け、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」と「感謝」と「周りの人々の幸せを願う」ことにより、奇跡的な回復力を発揮する。

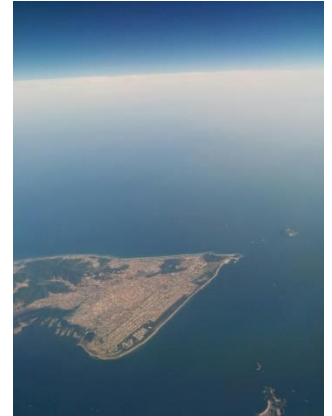
そして、「下半身と右半身の麻痺」など、身体に障がいを残しながらも、4ヵ月で現場に復帰し、中学3年生の担任を務める。主治医からは「首の骨を折って、ここまで回復した人は、治療した中では、藤塚さんだけだ」と言われるほどの「奇跡の復活」を遂げる。その体験を「命の授業」として6分ほどの「ムービー(動画)」にして公開したところ、30万人を超える人々の目にふれることとなる。(藤塚勇人オフィシャルサイトより)



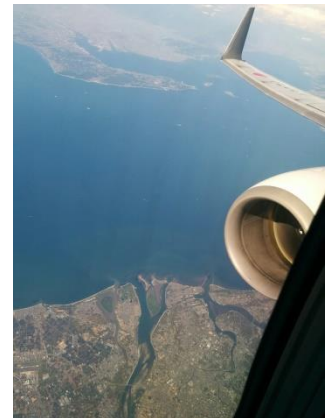
藤塚勇人「五つの誓い」

■高度 1 万mからの景色を見ながら…

去る 5 月 18 日、善光寺旅行会で永平寺にお参りに行きました。永平寺では善光寺先代さまのご供養を行って頂きました。帰路の飛行機では、運よく窓際に座れ 1 時間以上空の上からの景色を眺めることが出来ました。遥か彼方に小さくなっていく建物や町並み、そして山々。この眼下の地で多くの人々が生活をしているんだなあという感覚、そして私もその中で暮らしているのだという当たり前のことを思いました。いつまでも似たような景色が広がる中、機内には「羽田空港周辺に雷雲があり飛行機は知多半島周辺で待機している」とのアナウンス。どおりで時が止まったかのように同じ景色がつづいていたのですね。でもおかげで上空 1 万mからの景色をながく見ることができ、とても感動的でした。



このような小噺があります。江戸時代、信州の山奥の炭焼きの職人と、佐渡の漁師がそれぞれ別々に、浅草の観音様へお参りをした際、偶然旅館で相部屋となった時のお話です。食事の席で盃を交わし、四方山話を重ねるうちに、「お日様はどこから上がってどこに沈む」という話になりました。信州の炭焼きは「山から上がって山に沈む」と言って譲りません。佐渡の漁師は「海から上がって海に沈む」と言ってこちらも譲りません。それぞれの生きてきた環境が真実であります。互いに引かず、どうしても話がまとまりません。仕方なく仲裁に入った旅館の番頭に聞くと「屋根から上がって屋根に沈む」と言ってこれまた譲らないといったお話です。それぞれが正しいと思い込んでいるものが全てでありましょ



永平寺を開かれた道元禅師は、「(我々は) 参学眼力のおよぶばかりを見取会取するなり」と言われ、「のこりの海徳山徳おおくきわまりなく、よもの世界あることを知るべし」と説かれます。(正法眼蔵 現成公案) 私たちは、学び学んで眼力の届く限りを見取り会得するのではあるが、森羅万象にある真の姿を知るためには、目に見える形のほかに、残りの形相は多く極まりなく、そのように十方世界が成り立っていることを知らねばならないと示されております。

上空からの眺めは日常世界と異なるものの見かたを教えてくださいました。それは、ちっぽけな自分の世界で悩み、些細なことで傷つけあってしまうような生活から離れるための視点でもあります。謙虚に大きな心、捉われのない心でものを見るのが他人と自分を大事にしていく生き方があります。仏教ではそれを智慧と呼びます。自分の損得や感情を差し挟まないであるがままにものを見るちからです。

高度 1 万メートルからの景色を見ながら、違った角度から今の生活を見つめ直して見なさいと道元禅師や先代にいわれている気がした永平寺からの帰り道でした。

編集後記

◆自然豊かなやすらぎの郷霊園では色々な小鳥のさえずりを聞くことができます。きれいなうぐいすの鳴き声にはお参りの方からも、「どこかにスピーカーがあるんじゃないの?」と聞かれるほどです。他にも鳴き声が「チョットコーイ・チョットコーイ」と聞こえる鳥(コジュケイ)やメジロも多く、時折、キジも鳴きます。でも鳴き声だけで姿はなかなか見つけられません。そんななかで撮れた写真、この鳥の名前は何でしょう? 詳しい方がいたら教えてください。 合掌

